

# 天皇の沖縄訪問と

## 日本の司法

米倉 外昭 (ジャーナリスト)

気ぜわしい年度末に、明仁天皇夫妻が皇太子時代も含めて11回目となる沖縄訪問を行った。

3月27日に国立沖縄戦没者墓苑で献花し、28日には日本最西端の与那国島を初めて訪れた。ちょうど2年前のこの日、与那国島で陸上自衛隊沿岸監視部隊が発足した。天皇夫妻自身の思いは分からないが、このタイミングでの与那国訪問は、南西諸島の軍備強化を進める側を勢いづかせることになるだろう。

### 平和運動家に有罪判決

### 工事差し止めを門前払い

28日付の琉球新報一面コラムはこう締めくくった。「許されるなら『最後の来県』を果たしたお二人にお聞きしたい。平成の30年、この国は沖縄を大切にしたいと両陛下は思われますか」。



天皇の沖縄訪問を伝える新聞各紙

だ。一つは国が沖縄県の岩礁

破砕許可を求めないまま進めている辺野古新基地工事の差し止めを求めて、県が起した訴訟の判決。13日の那覇地裁判決は、漁業権の解釈などの判断を避け、行政が自らの権限を保護するために裁判所を利用できないという判例を根拠に、門前払いした。

### 戦争準備と組合弱体化は一体

菅野存委員長(東京東部労組)に聞く

14日には、沖縄平和運動センター議長の山城博治さんら3人について、反対運動の過程での行動が威力業務妨害、公務執行妨害・傷害の罪に問われた裁判の判決が言い渡された。懲役2年、執行猶予3年の山城さん以下、全員が有罪判決。山城さんら2人は直ちに控訴した。認定された被疑事実がゲート入り口にコンクリートブロックを積んで車両の進入を妨害したことや、防衛局職員を肩を揺さぶって約2週間のけがを負わせたと

問題であり、裁かれるべきは政府の側だと訴えてきた。しかし判決は、量刑の理由の中で「本件各犯は沖縄県内における米軍基地反対運動の中で敢行されたものであるが、犯罪行為であって正当化することはできない」と断じた。山城さんは何度も逮捕され、多くが不起訴となっていた。その中でブロックを積み重ね、多くの裁判所の姿勢は厳しい批判を呼んだ。

安民法制を強行採決し、9条改憲を目指す現政権に対して、労働組合が「戦争反対」を訴えるのは政治的すぎる」と批判する声がある。しかし、戦争になれば労働者の権利や暮らしは壊される。黙ってはいけぬのではないのか、そんな問題意識を戦前の労働運動から学んでいる労組がある。全国一般東京東部労働組合と友好労組の有志だ。東部労組の菅野存(あり)委員長に話を聞いた。

### 戦前にも非正規差別が

学習会では大原社会問題研究所の「日本労働年鑑」を教材にしました。参加者自らが順番に講師を務め、1回で1年分、1919年から194



菅野委員長



菅野委員長

### 米は補償金を拒否

### 地位協定の不備改めて

17日には、2016年4月暴行殺人事件を巡る新たな事実が報道された。損害賠償命に発生した米軍属による女性

令制度に基づき2月に賠償の支払い額が確定したが、米軍の直接雇用ではなかったとして米政府が支払いを拒否しているというのだ。裁判権は軍属として特権が与えられているのに、補償金の支払いでは拒否するという米政府の都合主義が露呈し、日米地位協定の不備があらためて示された。

法の下で労働組合が弾圧され、逮捕を恐るに、非正規と連帯して闘う労働者がいました。ところが、日中戦争が始まった1937年7月、盧溝橋事件を境に労働争議が圧倒的に少なくなりました。最大組織の全日本労働総同盟は10月、大会で罷業(ストライキ)解散、消滅します。

### 労働法令が除外され無制限に働かされる事に

労働組合が闘う力を失って権力が一層力を持つと、戦争へ突き進む準備が整い、労働者は無権利状態に置かれます。例えば、軍需工場に動員された労働者には当時の工場法、労働に関する法令が適用除外され、無制限に働かされます。賃金も国が統制しているの労働者の闘いによる賃上げの余地はありません。安民法制や共謀罪の成立、9条改憲が浮上している今だからこそ、労働組合が力を発

戦前の労働組合の組織率は最高で約8%です。治安維持

### 頑張った選管委員 緊張と閉塞感でいっぱい

西村滋雄 とにかくガチガチの緊張感と閉塞感に満ちた2日間でした。最初の秋元選挙管理委員長の本会議

の選挙という責任の重さが入り交じった一歩だった気がしました。私たちはそんな感じで画面を見ていました。選挙本番の日。開票集計から当選者発表まで、携帯の禁止、トイレや外に出る時は携帯を置いていくこと、部屋に閉じ込められ、他人との接触の禁止などの閉じ込められ感、やはり半端な感じだと思ひ返りました。



(日野)

### あの味噌汁 再現したい

配管 清水健

味噌は届かなくなった。私も大人になり、さまざまなところであの味を探しても、なかなかみつからなかったのだが、20年ほど前に観光で山口県の笠戸島に訪れた時、昼食であさりの味噌汁を口にして、子ども自身の母をしくしく、兄や姉たちに育てられたのが、東京に嫁いでからは、母の叔母が毎年冬になると自家製の味噌を送ってくれていた。ほんのりと甘く、やや白みがかつたその味噌は、とてもやさしい味で、どんな具材ともよく合った。残念ながら、私が成人する前に叔母もなくなり、